



がんばれ! 子育て日記

けいたいでんわ むちゅう 携帯電話に“夢中”に なっていませんか？

小学校高学年にもなると「友達がみんな持っているから」という理由で“携帯電話”を持ちたがる子が多くなります。

でも、実際に携帯電話を持たせると『家の中ではメール画面ばかり見て、親の呼びかけにまともに返事をしなかったり…。挙句の果てに「何をしているの？」とのぞこうとしたら、「プライバシーだから！」と言って怖い顔でにらみつけることも…。』

もっと本を読んだりしなければならぬはずの年齢なのに、“携帯電話が心の成長にも悪影響になるのではないかと心配な親御さんもいらっしゃるのではないのでしょうか？



昨今では“大人”でも、携帯の画面をいつも見ている人が増えている一方、「新聞」や「本」を読む人が少なくなっているようです。好むと好まざるとにかかわらず、私たちの周りでは“活字文化”がどんどん後退しているところですよ。

しかし、お子さんがより優れた人間性をはぐくみ、より良質の知識や深い知恵を身につけるためには、携帯電話に夢中になるよりも「本」を読むことが必要ですよ。

もちろん、本を読ませるためには「読みなさい！」と押しつけるだけではだめですよ。

なぜなら、「本を読むなんて面倒くさい…」というのが子どもたちの本音なのですから。

これに対して“携帯メール”は、情報を得るばかりでなく“発信”できる道具なので、子どもたちがこれに夢中になってしまうのは「認められたい」という欲求を満たしてくれる面があるからなのだそうです。

子どもは『現実の世界ではなかなか自分は認めてもらえないけれど、携帯メールを送信すれば、あたかも自分が認められた、受け止められたような気持ち』になるそうです。



お父さん・お母さんをはじめとしたご家族の方は、これまでお子さんの「認められたい」という気持ちを本当に受け止めてあげてきましたか？十分に話を聞き、それを理解し、ちゃんと対応してきてでしょうか？そのことをもう一度考えてみてはいかがでしょうか。

例えば、もし親御さんがお子さんに読ませたい“本”を見つけたら、まず自分で読んでみてから「とても面白い本だったよ」と言って手渡したらどうでしょうか。すると、お子さんは「お母さん（お父さん）が面白いというなら」という気持ちになって本を開いてみるかもしれません。

また、読み終わった本についてお子さんが話すと、親御さんが「そうそう、あそこは面白かったね～」といった反応をすれば、お子さんは「自分は認められた」と感じるのではないのでしょうか。そして、本を読む面白さも覚えていくことでしょう。